

発行：一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団（キッズファミ財団）
Foundation for Severely Ill Children and Their Families



ご挨拶

一般財団法人
重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
理事長 喜谷 昌代

いつもキッズファミ通信をお読みいただき、ありがとうございます。

財団も設立後2年半が過ぎ、活動も多岐にわたってまいりました。多くの皆さまのご支援、ご協力に感謝申し上げます。「もみじの家」も開設後2年半以上が経過し、多くの方々に利用されていて好評な反面、なかなか予約が取れないという状況もあり、嬉しい思いと心苦しい思いが半々となっています。第2、第3のもみじの家ができることを切に願っております。財団の活動は、利用料支援やファミリーフォトやキッズファミ

カフェといった日常的な活動に加えて、講演会、写真展、各種講習会、研修会、と多岐にわたりました。これからは子どもたちや家族が喜ぶコンサートをたくさん開きたいと思っています。

これからも、重い病気を持つ子どもと家族が安心して普通の生活ができる社会になることを目指して、いろいろな活動を続けてまいりたいと思います。引き続き、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆財団の主なイベントご紹介

■講演会・スペシャル対談 すべての子どもを育む社会を目指して

～医療的ケアの必要な子どもと家族を社会で支えるために～

10月14日（日）、成城ホールにおいて講演会を開催しました。国立成育医療研究センターの神経内科診療部長の久保田雅也氏が基調講演、もみじの家ハウスマネージャーの内多勝康氏、世田谷区長の保坂展人氏、さらにミニコンサートを挟んでスペシャル対談として医療健康データ科学研究センター特任助教の岡檀（おかまゆみ）氏と久保田雅也氏にご登壇いただきました。



久保田雅也先生

講演会では、まず医療的ケアを必要とする子どもと家族の日常や、人工呼吸器使用のため学校に行きたくても行けない子どもたちの実情について映像で紹介しました。その後、基調講演として、久保田先生から医療的ケアを必要とする子どもと家族の現実～病むということ～をテーマに、病気と闘わず、うまく逃げるのが大切とのお話がありました。続いて、内多ハウスマネージャーからは、もみじの家の利用者のエピソードや収支のことをお話しいただきました。



内多勝康氏



保坂展人区長

また、保坂世田谷区長からは、世田谷区の医療的ケア児の対応についてこれまでと今後の計画の説明がありました。岡檀氏と久保田氏の対談では、「病、市に出せ」をテーマに徳島県海陽町という小さな町の調査から生き心地の良いコミュニティについてお話しいただきました。



久保田先生×岡檀氏



また、講演と対談の間に行ったミニコンサートではアートピアの方々にクラシックとポピュラーの曲の演奏と歌を披露頂き参加者の皆さまに楽しんでいただきました。

医療、施設、行政、研究機関それぞれの立場から、医療的ケア児を支援する取り組みについてコメントいただき、一人一人が何を支援できるか考える機会となりました。登壇者の皆さまと来場者の皆さまに感謝申し上げます。



アートピア

皆さまからのご意見・ご感想（アンケートより）

医療的ケアのことがよく分かった。勉強になった。	40名
世田谷区長の言葉を直接聞けて良かった。世田谷区の取り組みが良く分かった。	31名
講演会のプログラム構成が良かった。いろいろな分野の方の話が良かった。	23名
講演会を主催した財団に感謝したい。	22名
自分に何ができるか考えたい。支援したい。	21名
ミニコンサートがとても良かった。	19名
このような講演会をまた開催してほしい。	19名
もみじの家のような施設が増えることを願っている。	15名

■成育バザー 初参加！ 皆様に喜ばれて

7月から準備を始め、財団メンバーや協力して下さる方からのご寄付の品物を沢山集める事が出来ました。当日(10/18)は会場準備やレイアウト、会計から誘導まで全てを財団のメンバーで行い大盛況でした。誘導係のお荷物やお子様のご一時預かりは来場者から喜んで頂きました。初めてのバザーでしたが来年も実施したいと思います。



■講習会「きょうだい児支援」 成育医療研究センター講堂

9月17日(祝)首都大学東京教授山本美智代先生による、きょうだい児支援について講習会を開催しました。きょうだいは障がいのある兄弟姉妹の安全を見守るなどの特有の役割を担っており、家庭内で居場所をつくってあげることが大切であること。また、命の尊さや家族のきずなを強く感じるなど独特の経験をしていることが説明されました。



■夏祭り TMC商店街主催祭りに参加！

8月5日、国立成育医療研究センター中庭で行われた夏祭りに参加しました。募金をしてくださった方に輪投げをしていただき、入った数に応じて豪華(?)景品を差し上げるという企画でしたが、大人気で長い待ち列ができました。一生懸命挑戦するお子さん、「がんばれ〜」「やった!」とお子さん以上に熱くなるご家族、とても楽しいひとときでした。



■施設見学

心身障害児総合医療療育センター

9月26日、板橋区小茂根にある「心身障害児総合医療療育センター」を見学させて頂きました。

心身に障害のある子ども達のための総合的な医療療育相談機関で、治療・トレーニングや将来を見据えた生活面の支援など、機能別に入所施設(整肢療護園・むらさき愛育園)と外来療育部門が設置されており、専門職育成のための研修施設もあります。医療的ケア度の高い子ども達、発達障害の子ども達と多様な対応をされており、理念としている「健康で明るい生活」の通り、子ども達、ご家族、そしてスタッフの溢れる笑顔が印象的でした。

■講習会「シドニーの子育て現場から…福祉と環境」 成育医療研究センター講堂

オーストラリア・シドニーで9歳の息子の子育てをしている、田中吾左人・静子ご夫妻を迎えて、9月14日、国立成育医療研究センター講堂で、財団主催の講習会を開催しました。田中吾左人さんは、シドニー生まれのシドニー育ちのジュエリーアーティスト。長男誕生1年、小頭症が診断され、小児麻痺も判明、3歳になった時、シドニーでのリハビリを選択、現在シドニー在住。日本でのリハビリ、現在シドニーでうけている福祉サービスの映像をご夫妻で説明してくださいました。静子さんの「社会にくるまれている感じ」が日本との大きな違いだというお話が印象的でした。



■JAIFA 夏季セミナーにおける写真展示 よみうりホール

JAIFA セミナーに二度目の参加をしました。今回は写真展示という以前に比べシンプルな形式でしたが、大勢の方が足を止め、中には前回の放映で感銘を受けたと募金をして下さる方々もいました。一度二度と回数を重ねることで人々の記憶に刻まれる大切さを感じました。お誘いを下さったJAIFAの方々へ深く感謝致します。



■もみじ写真館 リニューアル 成育医療研究センター 1階

今夏から、ファミリーフォトプロジェクトをご利用くださった方々のお写真と一緒にご家族の方々のコメントも展示しています。じっくりとご覧になって下さる方が多く、医療的ケア児とご家族のことを少しでも多くの方々に知っていただきたいという私達の願いが届いているようで嬉しい限りです。



■小児在宅医療技術講習会

成育医療研究センターセミナールーム

8月25日に医家向け技術講習会が開催され、応募者が大変多かったため午前午後の2回に分けて行われました。小児の気管切開、気管切開チューブの管理、胃瘻の管理についての講義があり、続いて人形を使っての実習が行われました。受講者からは熱心な質問や、もっと講習会の回数や時間を増やしてほしいとの意見がありました。





「もみじの家」の夏祭りに参加



「いらっしゃいませ。よろしかったら、何か飲んでいかれませんか。」

もみじの家で月4回開かれるキッズファミカフェは、1階のキッチンへ気

分転換にいらっしゃる利用者様への声掛けからいつも始まります。

でも、今日はもっと特別。8月18日(土)もみじの家の夏祭りに合わせて総勢40名のご家族がご来場と伺い、ボランティアスタッフ一同お好みの飲み物すぐお出し出来るよ

う、張り切って皆様を迎える準備に取りかかりました。

お祭り終了後、もみじの家のスタッフの皆様が工夫されたイベントを楽しまれた浴衣姿のお子様や、ご家族が続々と1階キッチンに降りて来られました。お祭りでゲットした景品や自分たちで作ったうちわを嬉しそうに見せてくれました。カフェは一気にお祭りの空気に包まれました。

カフェの一番人気は、暑い夏でも1杯ずつ専用マシンで作る淹れたてのコーヒーです。ドリップする度にコーヒーの香りがキッチンに漂うので、とてもカフェらしくなります。

お祭りの余韻を楽しみながらご家族でカフェでほっと一息ついて頂き、「ごちそうさま」と笑顔でお帰りになる姿をお見送りして無事カフェは終了しました。

多くの方が集まる日でしたので、カフェがご家族同士の交流のきっかけとなるようテーブルの配置やお席のご案内などももう少し工夫出来たかなと感じました。これからも皆様が寛げるカフェを続けていきたいと考えております。カフェがオープンしていたら、ぜひお立ち寄り下さい。

History of KIDANI 〈3〉 香港にて

当財団理事長、喜谷昌代のボランティア活動の歴史を紹介しています。

〈1〉〈2〉では、皇后美智子さまの勤めで日本赤十字社の活動に参加し、恩師、橋本祐子先生の導きにより生涯続く奉仕の心が培われたこととお話しました。その後、夫の転勤に伴い世界7カ国で暮らし、それぞれの国の赤十字社に所属して奉仕活動を続けてきました。



今回は香港でのことをご紹介しましょう。

1972年、香港へ。ここでも香港赤十字社に所属して活動しました。

その一つが難民居住地での清掃指導などの生活支援でした。この居住地には海上生活をしてきた人々が暮らしていました。長年の海の上での生活では、要らないものは何でも海に投げ捨てたので、地上の生活になってもその習慣は続き、何でも窓から外に捨ててしま

います。その人々に清掃方法など清潔に暮らすための支援を

しました。背中に大きな籠を背負って、竹箒を持って汗だくで働きました。

また九龍の町外れにある障がい児のための寄宿学校へ週に2回通いました。週末には帰る家のない子どもたちを自分の家に連れて帰り、週末を一緒に過ごしました。娘たちは子どもたちとすっかりお友だちになり、障がいのある子どもたちと一緒に遊ぶことを覚えました。

香港赤十字本社の2階では、各国の夫人たちと病院で使うガーゼと綿球を作る作業をしました。日本の方が参加すると完成品の山があっという間に大きくなりました。そこで、「この仕事は日本の方に任せましょう」ということになり、日本のご夫人方の仕事になりました。この仕事分担はその後、40年間続いたそうです。



じん 仁君がお兄ちゃんになれたのは もみじの家があったから

仁君のお母さま

2015年6月、仁（じん）は私たちの元に生まれてきました。やっと授かった我が子の疾患については産前に短命だと知らされました。当時海外勤務の夫も緊急一時帰国し、万全な体制で出産しました。NICUを経て半年間は父親なしで過ごし、やっと親子3人で暮らし始めたのは異国の地でした。医師の許可、パスポートの発行、現地の生活基盤の確保など多くの困難がありました。帰国後も仁のために引越しを繰り返し、やっと今の地に落ち着きました。

そして今年（2018年7月）、仁はお兄さんになりました。数か月前からお父さんと二人で『もみじの家』に泊まる練習をし、大好きなスタッフの方たちに囲まれ安心して過ごせるようになりました。出産本番となる『もみじの家』利用の初日、私が“もみじの会”に仁と一緒に参加し入院病棟へ戻るとすぐ陣発が起こりその日の夜に仁の弟、信（しん）が生まれました。仁が夜中もスタッフの方と楽しく過ごしてくれたので父親も出産に立ち会うことができました。それ以前に『もみじの家』がなければ第2子は考えられませんでした。

医療的ケア児を育てているからという理由で次の子を諦め

ることなく、仁をお兄さんにしてあげることができたのは『もみじの家』があったからです。このような施設がたくさん出来ることを願います。

（ファミリーフォトは仁がお兄さんになって2か月で撮って頂きました。カメラマンさんにはしっかりカメラ目線でビックリです。）

仁はお兄さんになって、表情豊かに喜怒哀楽を積極的に表現できるようになりました。これからも家族全員で仲良く過ごしていきたいです。そして『もみじの家』にできる限り長く仁の成長を共に見守って頂きたいです。



ボランティア経験を通じて… きっかけは理事長の講演を聴いて

稲井 清香
（聖心女子学院高等科）

今回、ボランティアとして、国立成育医療研究センターのロビーに展示されているキッズファム財団で撮影した「もみじ写真館」の飾りつけ作業に参加させて頂きました。

すでに付いている飾りを取り外し、その後、新たに季節の飾り付けの作業もしましたが、全体のバランスを見ながら貼るのが難しかったです。「目立つ作業が全てではない」という事を再認識出来る活



動でした。飾りが変わった事に気が付き、喜んで下さった方が仰った言葉に努力が報われた気がして、とても嬉しかったです。

また、もみじの家は、感染症を懸念して高校生をボランティアとして受け入れていないため、もみじの家を利用する子供達と直接交流する事は出来なかったですが、同世代の私に何か出来ないかと考えました。そこで、所属する学校の生徒会に呼びかけ、学院祭で紹介ブースを設けることにしました。小さな事ではあるけれど、少



学院祭での紹介ブース
しても何かのお役にたてればと思っています。

女子高生がやってきた！

8月末の2日間、聖心女子学院高等科2年生の稲井清香さんが、是非財団の活動を体験したいとのことで、学校の課題としてボランティア体験をされました。昨年の喜谷理事長の講演を聴いて、いつか実現したいと思っていたとのことです。

そして10月の学院祭で作られた財団の紹介ブースを見せていただきに行きました。

生徒会展示の部屋の一角に、喜谷理事長の思い、財団の紹介、ボランティア体験の記録などが展示されており、稲井さんからは「来年の文化祭の時は生徒会長なので、もっと大きなスペースのブースにします。」との力強い言葉をいただきました。若い力に期待大です。



英国だより(1)

喜谷 昌代



今年には日本に住む方々にとっては異常な暑さと多くの災害に悩まされた年でしたね。その年もあと少し、また新しい年が始まります。一体来年は、どんな1年になるのでしょうか？

先ずは30年続いた「平成」の年号が変わります。この30年間に、私達国民の為に御自分の健康もかえりみず御働き下さった天皇、皇后両陛下に、お疲れさまでございましたと、心からの御礼を申し上げたいと思います。この30年間に、沢山の人が生まれ、育ち、働き、そして亡くなりました。一体私達は何を残して行けるのでしょうか。こうして今、ペンを取っている間にも時計の針は「チクタク」と進んでいます。ある人は「あ～幸せな楽しい日々だった」と感じ、又他の人は「もうこんな年は二度と送りたい」と思っていることでしょうか。新しい年が、一人でも多くの人が幸せ多い年になりますよう祈っています。

秋の英国は、日本同様、紅葉が木の葉を染める美しい季節です。でも、私は、日本の紅葉の方が美しいと思います。というのは、日本の紅葉の方が、もみじを始め「紅」の葉が多くあるからです。今年、夏の暑さが秋まで残ったから、この時期もうとっくに枯れているはずのバラ、ダリア、コスモス等が今でも美しく咲いているのが驚きです。



ロンドンの公園の紅葉

10月末には、15、6年前にアメリカ(元はアイルランド)から英国に入ったイベントで、皆さんご存知のハロウィーンがありました。子供達は、黒い布で作った大きなクモやおばけをグループで持ち歩き、近所の人を驚かしながら、自分たちの持っている小さなバスケットや箱の中にアメやチョコレート等を入れてもらいます。その時、子供達は「トリック or トリート」と大きな声で自分達が近くまで来ている事を知らせます。天から降りて来る悪魔の霊に対し行うので、

これは子供達にとって少しこわい遊びです。この時はじゃが芋を主にキャベツとベーコンと生クリームで作った食べ物を作ります。

11月にはアーミスティス・ディ(今はリメンバンス・



ディ)という前の戦争で命を落とした戦場の兵士達の霊を慰める儀式があります。これは、各街々に立てられた戦没者記念塔に真っ赤な布や厚紙で作った四輪のけしの花のリース



けしの花のリース

(花の輪)をささげます。これは、女王様はじめ皇室、国会議員、多くの要人や一般市民も参加します。そして、これは、毎年戦争終結の日、11月11日に行われる事になっています。

このアーミスティスが終わる11月15日になると、クリスマスの準備が解禁されます。クリスマスの準備については、ケーキの作り方も含め、昨年も書きましたので、また今度お知らせ致しましょう。

もう間もなく、寒い冬がやって来ます。皆さま、どうぞ御身体を大切に、御元気で楽しい冬を御過ごし下さい。



戦没者記念碑

~~~~~  
これまで、もみじの家ニュースレターに連載されていた「ロンドンだより」が、キッズファミ通信に「英国だより」として新たに掲載されることになりました。

# ファミリーフォトの現場から

ファミリーフォトへの想い

安田 一貴

「今まで写真館で撮ってもらったのは、5歳の七五三の時だけでした。てんかん発作のコントロールが難しく薬の副作用で笑顔が全くでないまま、次の予約者もいたので申し訳なく早々終わらせてしまいました。それ以来、プロに撮ってもらうことは諦めていました。今回は、もみじの家でとても良い表情を沢山撮って頂き本当に感謝しています。一般のカメラマンでは



撮影風景

なく、理学療法士である安田さんが撮影してくださって、とても安心感がありました。」

このコメントは、あるご家族からいただいた感想です。僕は、キッズファム財

団のメンバーと共に、病気や障害を持つ子どもとご家族のスペシャルニーズに寄り

添った写真撮影の活動に関わっています。

お子さんとご家族は撮影をきっかけに、かわいいお洋服や七五三の着物を着たり、普段はあまりしない抱っこ



この時撮影した完成写真

を外に出てゆっくり風や太陽を感じたり、一生懸命ポーズを決めたり、少し緊張したり、ワクワクドキドキしたり、様々な表現をしてくれます。そして、そのすべての瞬間に、たくさん愛情と想いと願いが込められていることを感じます。

僕は、「はいチーズ」と撮影する記念写真が、写真の本当の価値ではないと考えています。撮影をきっかけに生まれる様々な心の動きと経験を届け、時間を経て、その写真を見て蘇る思い出、起こる会話、コミュニケーション、心に残るストーリーを届けることが本当の「写真の力」であると信じています。

これからも、もみじの家のあたたかい空間の中で、小児医療に関わる専門家として安心感をつくり、「写真の力」を信じて活動を続け、その一瞬にこころをこめて、その一枚に想いをのせて、「みんなの素敵」を届けていきます。

## ご寄付いただいた方々ご支援有難うございます

H30.4.1 ~ H30.9.30

敬称略

芦澤 昌子 / 東 桂子 / 井伊 知美 / 池上 典子 / 池田 琢哉 / 池永 豊子 / 石井 由美子 / 石井 恒樹 / 石岡 泰子 / 石川 わかな / 石田 朋靖 / 石原 晶世 / 石原 景子 / 石山 正子 / 五十子 敬子 / 市橋 良子 / 伊藤 啓子 / 稲垣 いく子 / 岩田 啓子 / 上野 美奈 / オイケ ユウタ / 大川 周二 / 大木 光子 / 大和 田明 / 美奥 芝彰子 / 奥野 英子 / 尾島 伶子 / 乙幡 貴美子 / 角館 勝子 / 片倉 ヒサ / 片山 ます江 / 勝川 恵子 / 加藤 睦子 / 門田 徹 / 門田 檀 / 金澤 開 / 作蒲谷 ひろみ / 鎌田 千津子 / 亀山 聡子 / 河村 ちひろ / 河村 政隆・佑子 / 菊地 博信 / 岸本 晃子 / 狐塚 七重 / 鬼頭 とし子 / 木原 優子 / 工藤 英俊 / 栗原 喜久子 / 栗原 幹雄 / 五嶋 くみ子 / 小谷 ゆう子 / 小谷 ゆみ子 / 児玉 美喜子 / 小林 京子 / 小峰 万木子 / 近藤 正一 / 鷺池 聡子 / 佐々木 葉子 / 佐鹿 博信・孝子 / 真田 勉 / 島谷 美成 / 清水 佳代子 / 下島 豊 / 下田 あい子 / 守隨 邦子 / 白川 世紀子 / 新藤 由喜子 / 杉浦 花音 / 鈴木 祐子 / 鈴木 由紀子 / 鈴木 佑高 / 岡 万里子 / 高田尚子 / 高梨 絹代 / 滝口 結菜 / 竹内 幸男 / 竹村 公華 / 田添 敦孝 / 田中 吾左人 / 田中 弥生 / 玉井 祥子 / 長場 直子 / 土田 和子 / 土屋幸子 / 土屋 七々 / 重戸 莉創 / 内藤 絹子 / 中澤 真由美 / 中島 秀樹 / 中島 陽子 / 永田 澄子 / 長田 真澄 / 中尾 あぐり / 永峰 涼子 / ナカムラ ハルミ / 中村 芳子 / 榎川 由紀子 / 沼倉 はるみ / 沼田 真由美 / 野口 喜久代 / 野村 紀子 / バーランド和

代 / 原田 俊和 / 原田 純子 / 樋口 浩康 / 久田 辰夫 / 平沼 泰三 / ファリーダラーマン / 福澤 良美 / 藤井 克徳 / 藤麻 香織 / 古澤 育恵 / 星 多恵子 / 星 由紀子 / 堀内 静夫 / 堀野 政則 / 前田 和恵 / 斑目 晶子 / 松居 有香 / 松野 邦子 / 三浦 文子 / 三浦 正充 / 水野 正望 / 三井 嬉子 / 三本 明子 / 峯基 二 / 村田 久美子 / 森部 加奈子 / 森山 邦代 / 諸藤 慶子 / 八 鍬 瑛子 / 山川 好子 / ヤマグチ マイ / 山口 栄一 / 山崎 佼子 / 統四郎 / 山下経子 / 山中 裕子 / 山根 浩佳 / 山本 美智代 / 横山 房子 / 吉田 徳三 / 和田 裕子 / Ms Toyoko Fry / Ms Chizuko Carleton / Ms Satoko Ingram / Ms Masayo Kidani / イニシャル 2 名 NY / KT / 匿名 12 名

### ご寄付いただいた企業・団体

MOMIJI UK / 株式会社 GIA / (株)セイファ / 首都開発株式会社 / 世田谷稲門会地域サポート活動部会 / 東京アーバンコンサルティング株式会社 / 東京目黒ライオンズクラブ / 日本産業パートナーズ株式会社 / 訪問看護ステーション HUG / 宗教法人ジョウショウジ / 株式会社エラン / 株式会社東急文化村ザ・ミュージアム / 株式会社ロッテ / 日本製薬団体連合会 / ヤマト株式会社

\* 日本製薬団体連合会 68 社……ウェブサイトをご覧ください  
\* 募金箱の設置については、多くの企業・団体様にご協力いただいています。設置箇所についてはウェブサイトをご覧ください



## 会員募集と ご寄付のお願い

- ★財団の活動は、皆様からの毎年のご寄付（年会費）によって賄われております。
- ★皆様からのご支援で、一人でも多くの「重い病気を持つ子どもたちと家族」を支えてください。
- ★会員の方には、継続的に財団通信をお送りするほか講演会等のご案内を差し上げます。
- ★財団通信にて、お名前・団体名を開示させていただきます。匿名およびイニシャルをご希望の方はお手数ですが、財団事務局までメールまたはお電話にてご連絡ください。

### ◆年会費（4月1日から翌年3月31日）

- ①法人会員 1口 100,000円
  - ②パートナー会員 1口 10,000円
  - ③サポーター会員 1口 3,000円
- \*1口からお受けいたします。

### ◆ご寄付

金額の多寡にかかわらず、ありがたく賜ります。ご支援をぜひお寄せください。

#### 口座名義

一般財団法人

## 重い病気を 持つ子どもと 家族を支える財団

（キッズファム財団）

#### 1.郵便振替

00140-0-420461

#### 2.三菱UFJ銀行

成城支店  
普通 0233800

#### 3.クレジット決済 →



おかげさまで…

## みなさまに愛される 街角の募金箱

当店へ募金箱を置かせて頂けないかとキッズファム財団の方より依頼がありました。

当店のビジョンとして、『そこで暮らす人たちの幸せを思い描き、暮らしそのものを開発すること』を

掲げ、店舗として何か皆さまに貢献できないかという思いを込めて、募金箱を置かせて頂く事にしました。多くのお客様のご協力もあり、帰り際に募金をして下さったり、ある方は、小雨の日に家に今まで貯めていた1円玉を大量に募金をして頂きました。今後もキッズファム財団様と、施設利用者様や地域の方に貢献できるイベント等を行い、盛り上げていければと考えております。

（Café Apartment 183 東 龍也様）



## 編集後記

キッズファム通信 No.4 をお届けします。皆様のご支援のお陰で講演会ははじめバザー、講習会、写真展等々多くの活動が行われました。詳しくは本文をご参照ください。

今号から、これまで「もみじの家ニュースレター」に掲載されていた喜谷昌代の「ロンドンだより」が、キッズファム通信に「英国だより」として引っ越してきましたので今後も楽しみにしていただければ幸いです。

また、表紙にファミリーフォトを利用された方々の写真を載せさせていただきました…皆さん、素敵な笑顔です。ご協力いただきました方々に御礼申し上げます。

（担当 大川・池永）



一般財団法人「重い病気を持つ子どもと家族を支える財団」

〒157-8535

東京都世田谷区大蔵 2-10-1  
国立成育医療研究センター内

TEL 03-5494-1230 Eメール zaidan@kidsfam.or.jp

Foundation for Severely Ill children and Their Families

URL : <https://kidsfam.or.jp> 「キッズファム財団」で検索ください